
IS ? いえ、NINNJA です。

unlimiter

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS?いえ、NINNJAです。

【Nコード】

N3248Y

【作者名】

unlimiter

【あらすじ】

。ある時代、忍びの時代。弟のため生き、死んだ男がいた。かれは死んで自然の摂理に帰るはずだった。だが転生した、曖昧で中途半端に。NARUTOとクロスしているようでしていない。世界はISで主人公はオリ主といっても過言ではない。明確な表現一切無し。つまんなかったらスママセン!! モグリ作品です。

曖昧な始まり

・・・すまない、コレで最後だ。

ある忍びな男はこうして息をひきとった。仏教とかで言うところの長い年月をかけ、魂は浄化して新しい生命になるだろう。しかし、なぜか彼の魂は中途半端に浄化され、新しい生命、それも、前世と一緒の人間に転生した。

本当になんの因果か彼は人間として、男の子として転生した。別にテンプレよろしくな展開があつたわけではない。しいて言うのなら、世界(?)ミス?

彼は、織斑一夏として生を受けた。そして、かれは・・・・・・。

一夏サイド

オハヨウこんにちは今晚は。織斑一夏だ。突然だが俺には前世の知識がある。記憶もあるがところどころボロボロで記憶とは言えず、むしろ記録という感じだ。日常には何の障害も無い。だが、なぜか千冬姉さんを見ると弟が欲しい(妹も可)衝動に駆られる。・・・・・・兄さんと呼ばれたい。

そして、知識が、前世の俺は魔眼持ちで忍びだったらしい。その魔眼はその一族限定らしいがなぜか気がついたら開眼していた。しかも、親しい人を殺して開眼する方も同時に。おそらく前世の親しい人達を虐殺したのを覚えてるからだろう。なんとか、前世の記録の影響で発狂せずにすんだ。魔眼はおそらく前世の魂に肉体が引つ

張られたのだろう。だが、性格は引つ張られなかった。可能性としてインターネットで調べた「テンプレ」というヤツだろう、しかも中途半端な。そして魔眼のほかに受け継いだものはやはり忍術であった、幸い体には前世には劣るが一般人よりは異常に多い「チャクラ」や身体能力が、コレなら前世にほぼ追いつくことが可能だろう。……む？もう寝る時間か、今流行の筋トレはこのへんで終いだな。

翌日

おはよう、朝だ。突然だが自分の性格だがクールは表面中身はボケで出来ている（自称）テンプレについて調べてる際に決め台詞とあつてなぜか覚えてしまった。どうやら中二病とやらの仲間入りらしい。症状は、不明。治療法も不明。ああ、鬱だ……。調べてもよく解らなかった。

生憎、機械とかは苦手だ。千冬姉さんに相談したら千冬姉さん大慌てだ。

で、病院（小児科）いったら、精神科行つて下さいと言われて大変だった。

まあ、冗談らしく健康ですと暖かい視線でいわれた。

そんな黒歴史は置いといて、俺の前世だが誰にも教えていない。記憶ならともかく、記録や知識だけじゃたいしたことないと思ったからだ。ちなみに、最近友達が出来た。篠之乃箒という名前だ。あと姉の束えさん。とりあえず、仲良くなった。束えさんは千冬姉さんと友達のようなのだ。

因みに束えさんが気があつた。なんだろう？ベクトルが違うが同類の予感？まあ、細かいことは気にしない。

ある日

おはこんばんは。一夏だ。図書館からなぜか忍者関連の本を借りてきた。千冬姉さんはそんな活字びっしりの本や図鑑読めるのかと驚いてたが「漢の浪漫」といったら納得された。冗談なのだが？束えさんや箒にもいわれたが「俺・・・、NINNAになるんだ！」といったら苦笑いで納得された。冗談なの、いや、いいかもしれないな。こうして、本格的に修行が（こっそりと）行われた。気配を無くすのも修行なのだよ。

ある日のいつか

皆に忍術を見せた。口から火を吹くアレです。前世と得意不得意が同じらしい。というか、皆に驚かれた。千冬姉さんには危ないと怒られた、サーセン。箒ちゃんには驚かれた、目をきらきらさせて束えさんにも流石に驚かれた。「さすがいっくん！束さんも負けてられないね！」と言われたが、束姉さんも何か頑張るのだろうか？

いつかの夕方

なんか箒ちゃんが公園でいじめられてたので殴つ血KILLした。とりあえず、ある者には前世で使うことが無かったが知っていた忍術・何とか葉千円殺し？ブツチャケ浣腸をやった。さらにある者には土に埋めた。・・・生きてるよ？取り敢えず箒ちゃんはちよつとドン引きしてた。やめて、いじめっ子Bのライフは零よ！見たいな目で見られた（悪魔で一夏視点）どうやらリボンが似合わないとかなんとかでいじめられてたらしい。似合うと言ったが、照れられた。なぜ？

ある日のある時間

束姉さんが、「フハハハハ、ついに束さんの成果のお披露目のだよ！見ててね！いっくん！篝ちゃん！」と言ってたが、千冬姉さんも出るとか言ってた、さらに千冬姉さんには内緒だぜっ！ともいわれた。千冬姉さん、強く生きてください。

翌日

突然だがオコジヨをテレビで見て腹が立った、無性に。なぜ？取り敢えずむかついたので、番組変えたら二ユースでミサイルがいつばい来るらしい。なんかテンションがあがるぜ。ツハ！これが最高にハイってヤツか！……言ってみたかったただだよ？ところで千冬姉さんは何処に言ったのだろうか？っあ、いた、テレビの中に。

そしてある日

どうやら篠之乃一家御引越らしい束姉さんは少し前のある日に逃亡。ちゃんと別れの品渡しして再会フラグと言うものを立てておいた。

おっと、篝ちゃんそう泣くな！ちゃんと再会フラグ立てるから、いま！

「篝ちゃん、取り敢えず、また会おうぜ！」と軽く悟った顔でいておいたさ！ん？なぜ顔を赤く？ま、いっか！

またある日

ヘーイ、一夏だ。最近修行はしていない。本体は、だがな。分身体て便利ですね？ここ最近前世の自分とかけ離れてる気がしなくも無い、性格面でだがな。まあ、それは置いて、転校生だ。ふ、まだまだ人生は終わらないってなあ。

大会当日

一夏だ。今日は大会だ、姉者……千冬姉さんの。最近語尾に「ござる」とか表現が変になってきた一夏だ。そして大会だ。ISの大会らしいが名前は忘れた。そして今、さらわれている、分身が……。まあ、分身だし良いよね？スルーしても良いよね？というわけで尿意に負けてトイレへ行って戻ってきたのだが、大会が中止にされていた。吃驚さ！！

その後

千冬姉さんが俺（分身）を助けたらしい。やべえ、罪悪感が！そんな訳でこっそり分身と入れ替わりました。なお、千冬姉さんはドイツに行くらしい。ほんと罪悪感でいっぱいさ、今日から千冬姉様と心の中で一週間ぐらい呼ぼう。あ、ドイツに行くんだった！じゃ、いつか！

今日も平和でした。

曖昧な始まり（後書き）

なんかすみません。ほんとすみません。出来心だったんです。
続きはどうなるのか不明。適当でマジすみません。

取り敢えずスカウターよこせ（前書き）

主人公について。

・・・もうオリ主ですな。

俺の馬鹿野郎！！

取り敢えずスカウターよこせ

名前

織斑 一夏（おりむら いちか）

スタイル

原作より少し高く（身長が）重い（筋肉で）別にマツチヨでは無い、断じてない！成長などの妨げにならないよう

に理想的に鍛えられている。

性格 たまにクールというか大人しい、静か？だが、心の中は昔、自分の様な者

を何と言うか調べ「テンプレ」ということを知るついでに、決め台詞、

俗に言う厨二病な台詞を覚えることで、曖昧な性格だったのが変な方向に。

姉や友を大事に！天然バグキャラチート一行で突き進みそう。

主人公の思考や性格は混沌としています。

スターテス

筋力 一般人（同年代）より強いが、その程度。ただチャクラ使っとチート。

速さ 主人公は速さが何よりも大事だと言うことで、陸上選手並み。

でも、チャクラ使つとバグる。

耐久 忍者ですもの、忍耐は凄い。明鏡止水の心。以下略。

チャクラ 前世の三分の二？成長と共に少しあがると思う。

魔眼 前世と変わらず、チートな眼です。観察したり、真似たり、幻術したり、骸骨出したり、黒い炎だしたり等等、視力は下がらないよ？バグだし

忍術 使い方はほとんど覚えてるが、忘れたのもあるかも？ていうか名前

完全に忘れている。技自体は威力三分の二、たまにご都合主義。

好きなもの ネタ、決め台詞、自由、イタチ、家族、弟（欲しい）、仲間、忍者、暇、など

苦手 権力、仲間に対する暴力、機械（操作は可）、その他

天敵 オコジヨ

夢 N I N N J A

補足

前世は忍びの国があり、忍びの時代の忍び。優秀だが、抜け忍だったようだ。

弟と一族で弟を取り、一族虐殺（弟以外の）があったり、弟と戦ったり、いろ

いろあったようだ。そして弟の戦いで力尽きる。

その後、仏教で言う魂の浄化でバクリ、記憶と意識等、魂の大事なところ

ほぼ浄化したが、知識と曖昧でボロボロの記憶（記録）などは浄化されなかった。

また、魔眼なども無事でバグ強化されてたりしたらしい。

意識（性格）は浄化されてるので、前世の性格や、本来の性格とは全然違う。

一応、緩く、天然な感じでいきたいと思っている。

取り敢えずスカウターよこせ（後書き）

ほんと、ツマンナイノナラばごめんなさい。

読み手が書き手になるのは大変ですと思い知ったこの頃、自虐気味に頑張ろうと思うこの日。

学生生活で大切なもの、それは「速さ」だ。（前書き）

まだ全然慣れていないので、少ない文量に駄文、亀更新あらざる田^タ螺^{ニシ}更新なのですが、お許しください。
ごめんなさい。

学生生活で大切なもの、それは「速さ」だ。

一夏さんの日常

突然だが一夏だ。今更だが随分前に親が蒸発したらしい。いったいどのように蒸発したのか？行方的意味か、物理的意味か？というか何時蒸発したんだっけ？きつと物心つく前だな、うん。

いつも俺の一日は突然始まるのだが、もう夏だ、夏休みだ諸君！実は昨日、弾に駄洒落いわれた。

「俺、この観察日記に一夏の^{ひとなつ}一夏^{いちか}を写すんだ……。」「といわれた。実にくだらないから、笑いながら突っ込んだいたよ。そしたら彼がむなしい顔で「勝った……。」「と喋ってたんだ。チナミ二観察日記は千冬姉さんを描いた、ただし現在ドイツだがな！妄想万歳だな。流石に暇になったので弾と鈴で遊んださ、いやー二人とも家が料理関係だから……。こっつあんです！

今更な日常

ああ、睡眠の時間だ、一夏です。いま、小学校でお勉強です。突

然ですが、まだ夏休み前です。

え？上の一夏さんの日常は何かって？未来です。バグです、妄想です。でわ、お休み、今度の眠りは少し……な……がく……。

「なにいつてるのよ！もうじゅぎょうでしょ！」（スパーン）

「ち、鈴か。お休み」

「違うでしょ！」

しょうがない、授業を受けるか（寝ながら）幸い背筋や目線の調整はマグロを見習ってできるようになったから大丈夫か。ちなみにこの鈴、ある日いじめられているの見たので助けてやった。

具体的に言っと、いじめっ子の周りでシャドー分身をして囲んで「ドーゲーザ！どーげーざ！」と謝罪を要求。するとあら不思議、皆がいじめっ子を哀れみの視線で……。いじめっ子は鈴に、もはや小学生にこの仕打ちは在るまいと庇われる。アレー？なんだかいじめっ子と鈴が和解したよ？なんか皆ドン引きしてるし。

ちなみに鈴に照れながらお礼言われた。おお、デレた！取り敢えずコミュニケーションとやらをしておこうか、うむ、あの決め台詞でいこうと「良い笑顔じゃねえか、そのほうが似合ってるぜ。」

あ、因みに友人Aな弾だが気がついたら友人Aになってた。いつたい何時から友人Aになったんだ？仮にもおれはN I N N J A（自称）なのだが、こやつ、できる！

一夏の夜

お休み！一夏だ。お休みなのにこのテンション、恐れ入るぜ。なぜ、こうもハイなのかと言うと、分身sが今外で修行してるからだ。別に寝れるが、ノリでこのざまさ。というか、千冬姉さん今ドイツなんだよね、今更だが。ふ、独り暮らしか、悪くないな。でも、千冬姉さんには悪いかな、色々な意味で。ああ、分身1が外で山籠りしてるよ、まいったね、もう何処でも寝れる！分身2は家で風呂か・・・分身の意味あるのか？分身3は上着を顔に巻いて上半身裸だが、ロングコートでギリ隠した謎の姿で人助けか、あつ、今女性に迫る男性を駆逐したところか。女性の方は混乱してるな、俺もだ。・・・寝よ。

授業中の一夏さん

ああ、鬱な一夏だ。いまは将来の夢について語る時間だ。詰まらん、皆IS関係の将来ばかりだ。ここは皆に流されずにいくか、俺は俺だ。

「では次、織斑一夏君。」

「心得た。」
(では、逝くか)

『私は将来、N I N N J Aになりたいです。そして夜な夜な働いて、正義の味方（笑）になりたいと考えています。たしかに、忍者未満の存在ですが、N I N N J Aには、とても素晴らしい設定があります。まず、皆が応援してくれます（暖かい目で）さらに、自由です！掟？なにそれ美味しいの？といっても過言ではありません。最後ですが、ここは重要です。無職です。』

「「「「「.....」」」」」

「えと、働こうね？織斑君？」

「嫌でござる！働きたくないでござる！」　これが言いたかっただけ。

その後一夏

一夏です、職員室です。小学生で呼び出しは初めてです。取り敢えず魔眼で皆に黒歴史を思い出さないように暗示を掛けました。魔眼チート乙とはこのことか。

卒業式など置いてきたある日。

突然だがぶっ飛んだ、一夏だ。もう中学生ですよ鈴や弾とも腐れ縁ですよ。千冬姉さんも帰ってきましたとも、とつくの昔に。取り敢えず家事スキル上がった、家族の世話は楽しいと思う。ああ、弟が欲しい。母さん、父さん、どうしてもう一人産んでくれなかったのさ。最近千冬姉さんが帰ってくるのが遅いが、どうしたのだろうか？何時の間に就職でもしたのだろうか？まあ、流石に姉に苦労ばかり掛けるのは辛いのでバイトでもするか（ニヤリ）

文化の日

文化際と聞いてやってきた一夏だ。心は文化人で趣味は音楽、そんな訳で弾たちとバンドの出し物だ、出すのは物ではなく音だがな。奏でた曲は数曲だが、その中の「暁」というのがなんか気になる。メタ発言レヴェルで引つかかる。まあ、その後無事演奏したあと弾の妹を紹介された。蘭という名前らしい、バンドに感動したようだ、全速力で走りぬいた陸上選手の如き笑顔でお礼をいったら顔を赤くして照れられた、そんなに凄かったのだろうか？ちなみにその後、鈴や蘭と文化祭をまわる事になったが心配は無用！影で分身して俺は自由だ！千冬姉さんに来れなかったからお土産もって行ったら喜ばれた。うむ、家族の笑顔はいいものだ。

そろそろな日

突如引越しな一夏だ、俺じゃないぞ？鈴だ。どうやら中国に引越すらしい。む、そう言えば、鈴に酢豚を一生奢ってあげると言われた。……一生酢豚か、なんか怖い。もう少しオカズ増やそうぜ、副菜や主食も忘れずに、という感じに返したら呆れられた。また「主食から汁物までコンプリートすればいいのね？がんばるわ！」という風にいわれた。鈴よ、なにを目指しているのだ？

と、もうお別れの時間か、む、篝ちゃんと同じような顔してるな、よし！フラグ立てるか！

「鈴、悲しむのもいいが、そのうち再開してもいいのだから？」

「一夏……、ええ、また会いましょう！」

はい、F a t e ネタですね。でもこれ死亡フラグっぽいな。

「フ、やはり笑顔のほうが似合ってるな。」

よし、なぜか照れられた！しかもアップパーもらいました。まさかこっちが饞別を貰うとは……。そんな訳でこちらも饞別の品を渡しといた、文化祭で奏でたヤツをまとめたCDだ。たまには真面目にいくのもいいものだな。

「いつちまったな。」

あ、弾いたのか？やべえ、忘れてた！

バイトの日

忙しいようで無駄、無駄アな一夏だ。ただいま公園でバイト中だ！寝ています（本体が）、ほんと分身の術はせこい。四人の分身が各々一人一つのバイトをすることでバイト代が一気に4倍もらえると言うチート。因みに鈴の引越しの日や文化祭の日などもバイトしたりしていました。空気など読まぬ！

最近のN I N N J Aは金に厳しいのですよ。しかも、各々チャクラチートで速い、力持ち、オーラが凄い！の三拍子でバイト先で人気だ。ブツチャケ千冬姉さんの給料に匹敵する。千冬姉さん、強く生きて下さい……。俺も高校受験、頑張るから！

学生生活で大切なもの、それは「速さ」だ。（後書き）

すこし、ハツチャケ度が少ない上になんかプロローグモドキと違う。とゆうことになったらごめんなさい。

あと、多分更新はむずいかもです、まだ一巻読んでないし。受験生だし。

自己反省部分ありまくりでおそらくこの小説はそのうち私自身の黒歴史になって封印されるかもです。

感想で封印といってくれれば、封印します。た、多分。

今更第一話 クラスメイトは全員くノ一でない事に絶望した！（前書き）

真面目な主人公になるかも！？でもやはりネタに走りました。

主人公もボケれば突っ込みもします（戦闘です）。

だが、戦闘なし。

MP無し。

心は濁っており。

瞼は重く、眠い：

そして、視力低下真っ只中。

ああ、絶望した。

一夏「おれも、これから自重するzzzzっぜ？」

今更第一話 クラスメイトは全員くノ一でない事に絶望した！

第一話 クラスメイトは全員くの一でないことに絶望した！

「全員揃ってますね。それじゃあSHR始めますよー」

黒板の前でにつこり微笑む先ほど自己紹介した山田T（ティーチャーの略）。

なんかスターテス表示で「萌え」に分類される属性を幾つかお持ちになっていそうな先生だった。

なんというか、雛〇沢の魂兄弟な四天王に「HAUUUUUU！おっ持ち帰りにいいいいいいいい！」的な感じになりそうだと思うのだが、俺だけだろうか？・・・かの作品（漫画・ゲーム・文庫・SS）たちはISが現れて衰退してしまったから知ってる者はこの学院には少ないだろう。ていうか居るのだろうか？いたらお話したい、明け方まで。

「それでは皆さん、一年間よろしくお願いしますね」
「・・・・・・・・・・・・・・・・」

教室の中は緊張感に包まれ、誰からも反応が無い。因みに主人公はまだ自己世界にいたりする。

「じゃ、じゃあ自己紹介をお願いします。出席番号順で」

だが、IS出現から出版された全ての作品を批判する気は無い。ISが登場する本でもいいのがある、いや、基本良質でなくては出

回らない。何がいけないかというとジャンルの偏りだ。

主人公は周り全員が女子なのを気にしてなかった。

今日は入学式・新世界の幕開け、その初日。俺が・・・番長だ！
だが、問題はクラスに男が俺一人のみ、というところだ。

（番長になっても子分全て女子か……。弟分が欲しい……。）
なにやらクラスメイトほぼ全員から視線を感じる。

だいたい、席が悪い。真ん中で最前線、後ろからの奇襲もよけれない。さらに後ろの者達で俺より背が低いと黒板が見えないじゃないか。空気読めない学園だと俺の直感が告げている。

おれはちらりと窓側の席を見る。

「・・・・・・・・」

うむ、幼馴染の篠ノ之箒、通称箒ちゃんだがなぜかふいに窓の外に視線をそらした。俺の頭の中で思考が走る。再開フラグを昔建てたが建ったようだ、あとなんかスターテスにツンデレが入ってそうだな。・・・なんかスターテスを見る程度の方が欲しくなってきた。

「・・・・・・・・くん。織斑一夏くんっ」

「イエス、マム！」

いきなり大声で呼ばれたので闇歴史時代にやった軍式挨拶（自称）

を条件反射でやってしまった。案の定、くすくすと笑い声が聞こえてきて、敗北感に襲われる。さすがに病み歴史はきついものが少しある。ちなみに大半は達成感、やり遂げた・・・的な。

別に俺は女子に苦手意識は無い。ないが女子高に入学という感じがなんとも。むしろ男子高で番長になって弟分を沢山もちたかった。ラーメンが食いたい。

ともかく男は俺だけ、他29名が女子。副担任も女性。担任は不明、どうせ女性だろう。というか初日のHRから居ないと着たか、できるな！

「あつ、あの、お、大声出しちゃってごめんなさい。お、怒ってる？怒ってるかな？ゴメンね、ゴメンね！」

気がつくとも山田丁が何度も謝っていた。諸君、私は今、番長の気分を味わっている！諸君、番長はもう飽きました。・・・・・・む？自己紹介？あ、忘れてた。

「山田丁、落ち着いてください。自己紹介しますので、落ち着いてください」

「ほ、本当ですか？本当ですね？約束ですよ？絶対ですよ！」

「ダチヨウクラブ的な意味で？」

「？ダチヨウ？この学園にそんなクラブありましたっけ？」

がばつと顔を上げ、念を押してくるからダチヨウクラブかなと思ひ聞いて見たが違ふようだ、残念だ。

しかし、すると言った以上、N I N N J A 足る者、契約は守らねば。となると、空気を明るくする自己紹介がいいか。ふむ、あのネタに決めた！

威風堂々と立ち、独裁者のように後ろを振り向く。

（気分は戦争フェチ）

俺が振り向くことで今まで背中に感じていた視線がよりいつそう俺に向く、この場は俺だ。なにせ殺気まで外を眺めていた幼馴染でさえ横目でこちらを見ている。

フハハハハ、いい眺めだ！では、始めようか、私の演説を……。

「諸君！ 私は、N I N N J Aだ。

諸君、私は、自宅警備員・N I N N

J Aだ！

無職がすk 『スパーン』 ヨーロ

ツパの火だ！？」

「誰が大佐か。そして誰が長い演説をしろと言った。」

「短い演説ならいいですか？自己紹介風で」

「ならかまわん」

『いいの！？』とクラスメイトは皆そんな表情だ。そして山田Tは混乱していた。否クラスメイトも混乱していたりした。仕方ないから混乱が解けるまで俺がここにいる経緯を回想した。

二月の真ん中、俺は中学三年。受験戦争の真っ只中だった。

「まさか一番近い藍越高校の受験場所が本校じゃないとはな、しくじったな」

カーニング対策でテスト会場通知が本番二日前か・・・、きなくさいな。まあ俺は一介のN I N N J A（自称）で姉がチート、幼馴染の姉が天災というただの一般人だ。命令ならば従うさ。

「さすがに姉に寄生する気はないし迷惑をかける気も無い。就職するか」

家に親は居ないし姉就職してるし俺は分身して変身して幾つかのバイトを掛け持つてるし、我が家は金銭を使うことは生活費と俺の学費などだしな。分身は全員顔を変えているし就職しても兼業してるとバレまい。・・・いま、通帳にいくらぐらい入ってるのだろうか？

「とちあえず受験場所に行くか」

ちなみに教科書をやる気出すために巻物に作り直したり、O・H A・N A・A H I 風模擬テスト（自作）をしたりと猛勉強し、なんとかA判定ゲットだぜい。・・・にしてもここはどこだ？くそう、俺は道でも人生でも迷子なのか！？ま、楽しければ、それでいいか。

「しかし何だ此处、『ここは実は秘密があるのだ』風な作りは？」

ヤバイな一度何か秘密がある、と思うと冒険しなくなってしまう。否、俺は気がついたら大・惨・事　な運命だからな、世界意思的にぶ、ではコレより任務だ。ドアをその手で開け、未来を掴め！

「・・・・・・そこだ！」

バンツ

そこには神経質そうな三十代後半の教師がいて、忙しいのかこちらを見ずに指示を出してきた。相手間違ってますよ？

「あー、キミ受験生だよな。ハイ、向こうで着替えてきて。時間押しているから急いでね。此处、四時までしか借りれないからやりにくいったらないわ。まったく何考えて・・・・・・」

（着替えて受験しろと？ふむ、聞いた限りじゃ受験対策だな。まあ、いっか）

細かいことは気にしない、それが俺のポリスィーだ。そういつて俺はカーテンを開けるとそこには奇妙な物体Aが存在した。それは鎧だった。ただ使われるのを待っているかのようにそこにあった。

これは、『IS』だ

正式名称・・・・・・忘れたな。ブツチャケ今流行の、という漢字でしか知らないな。なぜなら俺は、N I N N J Aだからだ！

「ということとはここは藍越の試験会場or待合室では無いのか。残念、取り敢えず手形でも付けて置くかな」

そういつて俺は手に特殊インクを付け（手作り）、ISに触れた。

「・・・・・・む？」

キンツと金属質な音が響く。……発動しました。あの後、人が駆けつけてきて大変だった。何が大変かというと普通に見えない特殊インク（手作り）、研究者や職員たちが気がつかないかハラハラしました。世界初男子操縦者にビックリしてたのと秘匿性に長けた特殊インク（手作り）の力作だったのではねずすんだ。そして心を無にして、適当に流されました。

「そして今に至る」

「いいから自己紹介しろ」

「うい、突然ですが織斑一夏です。趣味は分身、特技は分身、日課も分身です。嫌いなものはオコジョです。そして好きなものはNINNJAで夢もNINNJAで絶賛NINNJA中です」

「さて、突然だが山田君。クラスの挨拶を押し付けて済まなかったな」

「い、いえつ。副担任ですから、コレくらいしないと……」

さっきまでの混乱と涙は何処に言ったのやら……、デレましたな。だがコレくらいでは萌えぬ。

その後、千冬ねえs、いや、公私混同は良くない、ここは織斑T（TIHUYUのTでは無い、教師の略だ）としよう。うむ、織斑Tはその後、教官の如し、演z、紹介をし、クラスがざわついた。お姉さまとか俺はじつは織斑Tの親戚か家族とかいろいろあったが、あえてスルー！止まらぬよ。

法律とか説明とか経緯とか色々スルーしたい。眠いのだよ。

「……ちょっといいか？」

「あいさー」

箒ちゃんでした。話があるようで、取り敢えず静かなところへ、話はそれからだ。

「そういえば」

「何だ」

「去年剣道の大会で優勝したんだっ たな、おめでとう」

俺の言葉に頬を赤らめた。いや、今の台詞の何処にデレ、もしくは恥ずかしくなる台詞があったのさ？

「何でそんなこと知っているんだっ」

「スポーツ新聞」

「な、何で新聞なんか見てるんだっ」

いや、N I N N J Aでも新聞ぐらい見るだろう、多分。そして剣道やっているからか口調が少しサムライな感じに。S A M U R A I ? 俺も負けてられぬ！ゴー。

「ニンニン」

「な、なんだ!？」

「.」

「あ、いや.」

どうやら混乱しているようだ。N I N N J A対S A M U R A Iの異職コミュニケーションは大変だ。

「にしても御久、箒ちゃん」

「ちゃ、ちゃん付けで呼ぶなっ」

「じゃ、箒」

「.」

はい、K Oです。コミュニがバトルになってないか不安です。箒、

腕を上げたな。

「よ、よくも覚えているものだな・・・」

「髪型一緒だし幼馴染だし、N I N N J Aだし」

「・・・・・・」

はい、睨まれました。ボケが足りないとか？昔より衰えたとか、ならば見せてやろう！ほんっ調子を！！

キーンコーン・・・・・・。鐘が鳴りました、戻りました。時間厳守だ！

「であるからして、

以下略」

すらすらと教科書を読んで行く山田、だが俺の耳にはそのような機械的説明！・・・何語？

「織斑君、何かわからないところがありますか？」

おっと、俺が机の上で何かしてるのがきずいたのか、聞かれまして。

「はい、言ってることは解りませんが、予習で無問題です」

「えっと????」

「まあ、山田、コレを見てください。話はそれからです」

そういつて俺は鞆から例の物を出す。そして見せる。

「え、えーと？これは、巻物？」

「教科書（巻物ver）です」

「ええ！？」

「これとこれとこれらが入門編です、内容は覚ええました」

「ほ、ほんとですか？というか字が明らかに古文のような行書のよ
うな昔の字になってて読めません」

「まあ、聞いてください、俺は中学生のとき高校受験で平均以下で
したが教科書やノートを巻物にすることで行き成り上位に君臨する
ことに成功しました！」

「は、はあ」

「というわけで、昨日の内に教科書の丁度今日やったところの幾つ
か後まで巻物にしました。そんな訳で教科書の中身は丸暗記しまし
たのでご無用！聞いている振りをしてます」

「は、はい。・・・グスン」

「・・・馬鹿者が」

山田下涙目です。まあ、自分の言っていることが必要なしといわれ
ればしかたなしか……。ふ、織斑下も内容は覚えていてちゃんと
ノートに書き写してあるから何も言えまい。その後、なんとも微
妙な空気から授業再開し、二時間目の休み時間に。

「ちょっと、よろしくて？」

次回に

続

く

・・・・・・

・・・・

今更第一話 クラスメイトは全員くノ一でない事に絶望した！（後書き）

笑いが足りなくて面白くないかも知れなかったら御免なさい。

どうでしょう？一話毎ごとになぜかキャラが変わってしまったような気がする人、スミマセン。

嗚呼、疲れた。今回は真面目です？

次回もこんな調子になるかも。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3248y/>

IS?いえ、NINJAです。

2011年11月11日01時22分発行